

# 太宰府の文化財

vol. 476



▲図1 太宰府天満宮での1月7日の「うそ替え」

太宰府天満宮では、毎年1月7日の夜に「うそ替え」といわれる伝統行事が続いています。これまでの研究で少なくとも江戸時代の初めにはおこなわれていたことが分かっています。「木うそ」という木彫りの鳥に旧年中に自分でついた嘘を含め、それを「誠」に変えるために、漆黒の闇の中で他の人とつぎつぎに「木うそ」を交換し合います。ものを交換して良いことを手に入れるという、神事と

## 正月7日の「うそ替え」行事と人勝

しては珍しい行事です。

この行事の元となると思われる習慣は、古代中国の正月行事に見られます。『荊楚歳事記』という6世紀の中国・長江中流域の年中行事を記した本の中には、「正月七日は人日と為す。七種の菜を以て羹（スープ）と為す。綵を翦（切り）て人と為す。」

す。或いは金箔（金箔）を鏤めて人と為す。以て屏風に貼り、また、これを頭髮に載せ、また、華勝（髪飾り）を造り、以て相遺す。高に登って詩を賦す。」とあり、正月七日は人を尊重する日と定められ、古代中国では1月7日は「人日」「人勝」と呼ばれていました。この日に、美しい模様



▲図2 人勝残欠雑帳(出典:正倉院宝物)

の形に切り抜いたり、屏風に貼ったり、髪飾りにして贈答しあうことで、無病息災や子孫繁栄を願う習慣があったようです。奈良の正倉

院に「人勝残欠雑帳」という絹に文字と文様が描かれた新年の挨拶状が残されており、日本でも古代より1月7日に工芸品を贈答する習慣があったことが知られます。布の中央に「令節の佳辰、福慶惟新たり、やわらぎ和むこと万載、寿保つこと千春」と書かれています。『万葉集』巻五「梅花歌三十二首并序」の「初春の令月にして、気淑く風和らぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす」に通じる新春の情景です。

古代の新春に思いをはせながら、木うそを手にして「うそ替え」に参加してはいかがでしょうか。

文化財課 山村信榮

### 筑紫地区文化財写真展『推しの文化財』を開催

文化財課 調査係 (☎内線470)

ページID 38536

☑日時

令和7年1月7日(火)～19日(日)

☑場所

いきいき情報センター 2階 市民ギャラリー

太宰府市公式SNSのフォローをお願いします!

